



## 海を渡った宝石箱—ガラス・象牙・漆

2018年4月19日(木)～7月10日(火)

アジアギャラリー

なめらかな光沢のガラス絵。精緻な描写が美しい象牙画。そして、やさしい質感の漆絵。どれも素材自体の特性がいかされた、工芸的な魅力をあわせ持つ絵画作品です。

絵画といえば、紙や布などに描かれたものが大半です。しかし、古くは18世紀のアジアでは、技術的に制作が難しい板ガラスや手に入りにくい象牙などの貴重な素材にも絵が描かれました。ヨーロッパ諸国が貿易のために進出していた中国やインドでは、写真が広まっていなかったこの時代、現地の人物や建築、風俗などを描いた絵画は、高級なお土産物となり、西洋における中国趣味、インド趣味を満たしました。貴重な素材にエキゾチックなアジアを描いた「宝石箱」は、人気の高い輸出品として海を渡ったのです。



▲ 作家不詳「中国人家族」清時代(18世紀)、油彩他・ガラス

### 中国のガラス絵と「チャイナ・トレード・ペインティング」

中国の清時代に描かれたガラス絵《中国人家族》にはじまるコーナーでは、ガラス絵にあわせて、油絵や絹製品、象牙画など、18-19世紀に制作された輸出用の洋風画「チャイナ・トレード・ペインティング」を紹介します。

- ▲ 作家不詳「広東の商館」1805年頃、油彩・象牙
- ▲ 作家不詳「広東の商館」1850年頃、油彩・画布
- ▲ 作家不詳「中国人物・吉祥文様」清時代(18世紀)、墨と顔料・絹
- ▲ 作家不詳「中国人家族のいる雪景色」1810年頃、油彩・画布
- ▲ 作家不詳「広東のコンスクワー邸」19世紀初期、油彩・画布
- ▲ 伝ラムクワー工房「夏の宮殿の皇后」1830年頃、油彩・画布
- ▲ 作者不詳「貴婦人像」19世紀、油彩・画布、個人蔵

### インドのガラス絵と「カンパニー・ペインティング」

一方、同時期のインドでは、衰退したムガル朝の宮廷細密画家たちによって、新たなパトロンであるイギリス東インド会社の高級社員の好みを反映させた、象牙画を含めた洋風細密画「カンパニー・ペインティング」が描かれ、その多くがイギリスに渡りました。さらにここでは、中国のガラス絵の技法の影響を受けたという説もある南インドのガラス絵と、ヒンドウの神々を描いて人気を博した同じ南インドの大衆宗教画もあわせて紹介します。

- ▲ 作者不詳  
「ラージャーと踊り子」19世紀末-20世紀初頭、油彩ほか・ガラス
- ▲ 作家不詳(ヴァルマー・プリント)  
「クリシュナとヤショーダーとナンダ」20世紀前半、オレオグラフ・紙
- ▲ 作家不詳(タンジョール派)  
「タンジョールのマハーラージャー、セルフオジニと大臣」  
19世紀初頭、グワッシュ、金・ボードに紙
- ▲ 作家不詳(タンジョール派)  
「タンジョールのマハーラージャー、プラターブ・シンとその息子、  
トゥラジャジニ」19世紀初頭、グワッシュ、金・ボードに紙
- ▲ 作者不詳  
「サムルー夫人の邸宅」19世紀前半、水彩ほか・象牙

### ジャワの現代ガラス絵

ジャワやワヤン・クリ(影絵芝居)などの様式を反映させたインドネシアの現代ガラス絵も展示します。

- ▲ ハリアディ・スアディ「魔力と護符 I、II」1980年、アクリル・ガラス
- 「ブトロ・コロ(悪魔払い)」「聖獣ブラック」1996年、アクリル・

### 中国とベトナムの漆絵

最後に、20世紀に入り工芸としての漆芸ではなく、絵画としての漆絵がさかんになったベトナム、中国の漆黒の背景から絵が浮き上がるような漆絵、つややかな漆絵もお楽しみください。

- ▲ レ・クワン・ハー「出会い」1997年、漆絵
- ▲ タイン・チュオン「田園のかたわらで」1999年、漆・パネル、  
Art-U room 所蔵
- ▲ グエン・ティエン・チュン「(夫婦と子ども)」1954年、漆・板、個人蔵
- 「夜の脱穀作業」1963-64年、漆・板、個人蔵
- ▲ ダン・ティン・トゥオン「都市の建設」1979年、彫漆・板
- ▲ ルオ三兄弟(羅氏三兄弟)「我、北京天安門を愛す」1996-97年、  
写真、コンピュータグラフィック、水彩、漆・板